

# 「ご近所福祉」を強める法とは？

①	世話焼きさんを中心に	肩書よりも実質的に人を助ける能力のある大型の世話焼きさんを発掘して、その人たちが中心になってご近所福祉を進める
②	当事者が助けられ上手になる	自分で助け手を発掘して上手に活用 ⑨「自助」の章で扱う
③	相性を大事に	見守り体制づくりも相性を考慮に入れる ⑨支え合いマップで相性関係は見えてくる
④	「おせっかい」「出しゃばり」を容認するご近所に	引きこもりの人には「おせっかい」をしなくては助けられない。世話焼きが出しゃばるのを邪魔しないご近所に
⑤	認知症、障害をオープンに語れるご近所に	誰かが先鞭を切って「ウチの夫は認知症です」と言ってしまう
⑥	当事者同士がご近所で助け合い	ただ助けを求めるだけでなく、自分たちで問題を解決し合う。これができるば、大型世話焼きさんの出番も減る
⑦	家族、親族の助け合いも強化	出来る限り家族、親族でも助け合いつつ、ご近所にも助けを求める。この自助が原点
⑧	まずふれあいを盛んに	井戸端会議を各所で。お互いの家も開きあう。その中から助け合える井戸端会議が生まれてくる
⑨	ご近所に住む保健福祉関係者も協力	それぞれの専門の技術、知識をご近所福祉にも活用 〔注〕詳細は「介護」の章で扱っている
⑩	「ボランティア」もご近所に戻って関与	ご近所を出払っている「ボランティア」は、自分の住むご近所福祉にも参加。自分の特技をご近所で生かす
⑪	ご近所の要介護者に関わるプロが隣人にも協力を求める	「枠外のニーズ」への対応で、当事者の周辺の人たちにも協力を求める。それだけ共助が動き出す 〔注〕詳細は「介護」の章で扱っている
⑫	福祉関連施設がご近所にも	それぞれの「ご近所版」が整備されれば、人々のご近所生活は充実する。
⑬	保健、福祉機関のご近所拠点が置かれる	プロが日常的に派遣される、または常駐すると、難ケースをプロに引き取ってもらえるし、プロも住民に頼みやすくなる

⑭	町内圏域のコーディネーターが頻繁にご近所訪問	ご近所福祉の担い手をバックアップ。これでご近所に町内がつながりやすくなる
⑮	大きな問題は上層圏域が関わってくれる	ご近所では解決できない難問には上層圏域の組織やプロが関与（協力）してくれる
⑯	ご近所全体を老人ホーム（福祉センター）に	ご近所の住民が総動員、そして役割分担すれば、要介護者は自宅で生活しながら「施設」に入所したのと同じことになる
⑰	有償の活動も	難問には自然に有償対応の事例が生まれてくる 〔注〕 詳細は「ふれあい」の章で扱っている
⑱	ご近所福祉推進の拠点がある	集会所でも世話焼き宅でもいい。とにかくそこでご近所福祉を日常的にすすめられることが大切
⑲	（世話焼きたちで）ご近所福祉推進体制を作る	肩書よりも天性の資質の人、実際に人の面倒を見ている人たちで体制づくり。民生委員が加わってもいい
⑳	ご近所福祉推進者にも「手当」を支給	ご近所福祉を担うのだから、若干の手当が支給されるべきで、その実践例も出てきた